

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500179		
法人名	株式会社 さんだん花		
事業所名	グループホームさんだん花 3F		
所在地	沖縄県宜野湾市大山七丁目7番22号		
自己評価作成日	令和7年 3月 7日	評価結果市町村受理日	令和7年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和7年 3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前・午後も体操をメインに活動を行い、メリハリのある日常生活を過ごせるような日課となっ ています。近所に商業施設が多く、気軽に外出しショッピングをしたり、施設の目の前は海を眺めながら散歩 ができる環境があるのも魅力の一つです。今後も理念にもありますように家族のようなぬくもりのある ケアを心掛けていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

クリニックに併設された有料老人ホームを令和6年4月にグループホームに転換した。海岸沿いに立地 し、大型商業施設が隣接している。有料老人ホームを転用したため、各居室にはトイレが設置され、居 室・共用空間についても余裕のある空間となっている。クリニック開設から20年余りの運営法人は、地 域の医療福祉の実現を理念として事業を運営し、理念が職員に浸透し日々の介護実践を行っている。 法人は、職員の働きやすい環境整備を行い、夜間の照明設置等、職員の要望に適切に対応してい る。入居している利用者の要望については、兄弟で同フロアの希望や、携帯電話の所持やリハビリや 訪問マッサージ等の要望等に対応している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアのスタッフが見える場所に、理念を掲げ、常に確認できるようにしている。また、ミーティング等で共有している。	理念は、「心の平和・体の平和」「ピンピンピカピカ」「ぬくもりあるケア」の3点を挙げている。法人理念と共有しており、法人全体研修会や事業所の玄関に掲示する等、職員への周知を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣を散歩したり、スタッフと一緒に買い物をしたり、外出する機会を作っている。	市社会福祉協議会が開催している小学校での車いす体験出前講座に参加した。その他の社会福祉協議会発行のボランティアだよりをファイリングし、情報を収集している。自治会に加入して自治会長には、運営推進会議委員を委嘱している。防災支援の強化のために地域の消防団への加入を検討している。	検討している地域消防団へ加入し、防災時の協力体制の構築や地域の商業施設と関係を構築し交流の活性化に期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	宜野湾市社協の行事として、宜野湾市内の小学校へ車イス体験の講師として参加させてもらった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催している。現状報告と意見交換を行い、議事録を作成しスタッフで共有している。	運営推進会議は、2階と3階合同で実施している。4月の会議では、津波警報の対応について報告し、今後の対応について参加者と協議した。委員には、市内のグループホーム管理者を知見者として委嘱し、会議では、グループホームの運営について助言を得ている。議事録には、推進委員の要望・助言等や事業所の対応について記載欄がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	宜野湾市のグループホーム連絡会に参加している。	有料老人ホームからグループホームへの事業転換に伴い、管理者研修の受講について通常事業所から1名のところ、2名の受講を市に要望し実現できた。開所にあたっては、地域包括支援センターと連携して、情報共有を行っている。市からは、事業開始準備から助言を得ている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に一度、身体拘束適正化委員会を開催している。年に2回、スタッフへ研修を行っている。	身体拘束をしないケアについて、指針・マニュアルの策定がなされ、身体拘束適正化委員会については、3か月に1回の開催と議事録が整備されている。研修については、年に2回法人全体研修を実施している。事業所では、管理者が作成した資料を活用して職員1対1での勉強会を実施し、職員への周知を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや話し合いの場を設け、実際のケアの仕方や事例や資料を基に、話し合っている。	虐待防止の取り組みについて、指針・マニュアルは作成され、指針に沿って6月と9月に委員会の開催と議事録が整備されている。研修については、管理者が作成した資料に基づいて職員全員と対面して説明を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、権利擁護について理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書の内容を説明している。契約の内容を理解した上で署名・捺印を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートBOXを設け、ご意見を頂いている。面会時や電話連絡の際には、現状報告も行い、ご要望を聞いている。	設置しているアンケートBOXには、意見が寄せられ、適宜対応している。兄弟で同じフロアを希望された利用者については要望に応えたり、リハビリを実費で利用したいという要望や、訪問マッサージの利用の要望等についても柔軟に対応している。足の爪のケアの要望等についてもその都度対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で意見交換を行っている。スタッフが働きやすくなるよう、年に一度のセルフチェックを行い、希望があれば面談を行っている。	毎月グループホーム会議を実施している。参加者は2階3階の管理者・介護職・法人の専務・経理・常務が出席している。管理者は、職員からの要望や意見について会議で報告している。有給休暇の取得・夜勤者の休憩時間の確保・駐車場の出入り口に照明器具を設置する等の要望について対応した。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、セルフチェック表を配布し、一人ひとりに合った働き方を理解している。何かあれば、相談できる環境づくりを心掛けている。	健康診断については、隣接するクリニックで定期的に受診している。職員に対して年に1回セルフチェック表を配布しチェックした内容に応じて個人面談を実施している。メンタルヘルスのチェックも定期的に行い相談窓口を設置している。広報誌「さんだん花日和」にはイベントや職員の声を記載して発行している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームだけの勉強会でなく、会社全体の勉強会もあり、それに参加している。また、外部の勉強会にも参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、勉強することができた。その後、必要な情報をスタッフへ周知し共有した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その人らしさを尊重し、やりたいことを確認している。スタッフで情報を共有し、対応できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一日の流れを理解して頂いた上で、その方に合った過ごし方や要望があれば、その都度確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態に合わせた対応や、状態に変化が起きた場合の対応が違ってくる旨の説明、会議の必要性を理解してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の役割を見い出し、洗い物や新聞折を一緒に行い、コミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、ご本人とご家族様の関係性を理解できるように、コミュニケーションを重視している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴や職歴を、ご家族から聞き取り、入居者からご要望のあった元々生活されていた家に、ドライブに行ったり、以前通われていたデイサービスの友人と交流を行っている。地域の自治会から生年祝いの訪問があったり、携帯電話をお持ちの方は自由に友人と連絡を取り合い交流されている。	これまで通所していたディサービスを訪ねて馴染みの方々との交流の継続を支援している。携帯電話を所持している利用者が2名いて、知人や友人と電話で交流をしている。自宅近隣へのドライブを行い話を伺う取り組みを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日に2回フロアに集まり、活動を行っている。その時に体操やレクレーション、お喋りをして同じ時間を過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が住まわれている自宅のグループホームへ転居した入居者に対して、状況確認、またご家族と連絡を取り、状況確認を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月モニタリングを行い、状態を把握している。ケアプランの見直しを検討したり、必要があればご家族へ報告している。	入居前まで庭いじりを行っていた利用者の「土いじりがしたい」という要望に対して、ホームセンターに同行し苗と土を購入して、ベランダのプランターに植えた。戦争体験の語り部として活動していた利用者の方に対して、職員等に対して話す機会を設けるなどの支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族との会話の中で、好きだったことや生活歴を確認し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の、生活特記を記録したり、毎月のモニタリングで状態を把握し、状況に合わせたケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	病院受診の前に、状態報告や意見交換を行っている。月に一度モニタリング評価を行い、必要があれば見直しを行っている。	モニタリングについては、日々職員がタブレットに入力したデータを介護計画作成担当者が収集して整理している。毎月実施している利用者のカンファレンスの際に個々の情報を共有して実施状況を確認している。収集した情報を分析・検討した結果を介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活特記を記録し、情報を共有している。状態の変化があれば、カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良や急変時、ご家族と連絡が取れない場合など、時間がかかってしまう場合には、代行で受診等の付き添いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ、一緒にショッピングを行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や定期受診の際、かかりつけ医やご家族へ情報提供を行っている。受診後は申し送りを行い、健康維持に努めている。	馴染みのかかりつけ医を受診されている利用者が6名で、訪問診療を利用されている利用者は2名おり、通院は基本家族対応で、その都度、事業所から口頭と文書にて情報提供を行い、主治医と連携を図っている。通院中の利用者については、家族対応で定期健診を受けており、訪問診療の利用者については、主治医の判断で適宜健診を受けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日に一回、診療日にクリニックぎのわんの看護師のラウンドを行っている。その際、気になる入居者や相談事を行い、体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院へ情報提供を行っている。病院からの聞き取りや状態確認を行いながら、退院カンファレンスの参加を行い、その内容を職員へ伝達し、情報を共有している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期、看取りの指針を行っている。終末期の対応が必要となった際には、家族の意向を確認し、主治医、施設で話し合ったことは、しっかりと職員へ共有している。	重度化や終末期に向けた支援については、契約時に利用者、家族へ文書を交付して説明し同意を得ている。入居後、利用者が重度化した場合は、利用者、家族、主治医、専門職等を交えて話し合い、その内容を全職員で共有し支援に臨んでいる。医療行為等が必要となり対応が困難になった利用者については、他の医療機関や施設等へ案内をしている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は、状況を整理し、なぜ発生したのか。今後の対策を話し合い、スタッフで共有している。急変時も、状態を記録し、看護師や救急隊にしっかり申し送りができるよう周知している。	事故対応マニュアルを整備し、年1回、研修を実施している。スタッフルームには、急変時の対応についてフローチャートが掲示されており、いつでも初期対応が確認できる。併設のクリニックと提携し、24時間連絡できる体制を確保している。事故発生時は、臨時ミーティングで原因及び対策を検討し報告書を作成後、申し送りや日誌を活用し全職員で情報共有を図っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	感染症については、勉強会を開催している。災害対策については、年に2回避難訓練を行っている。	年2回、昼夜を想定した災害訓練を実施している。食料の備蓄は2日分あるが、在庫の入れ替え時期と重なり確認できなかった。災害、感染症についての業務継続計画(BCP)の作成と研修は実施しており、今後は訓練の実施を予定している。感染症及びまん延防止のための取り組みとしては、マニュアルと指針を整備し、年2回、委員会の開催と研修を実施している。	食料の備蓄は少なくとも3日分は用意し、在庫の入れ替えが必要な場合でも、備蓄を切らさない取り組みが望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりのペースや気持ちを優先している。必要によっては、入居者の名前ではなく、お部屋の花名で伝えることもある。	常に利用者の意向や人格を尊重しながら支援し、職員間で利用者の個人情報を伝達する際は、プライバシーに配慮し居室の花名を用いることがある。契約時に個人情報保護の方針や利用目的を文書で説明し同意を得ているが、文書が閲覧可能な状態にある事が確認できなかった。年1回、個人情報の取り扱いに関する勉強会を開催し意識向上に努めている。	個人情報の取り扱いに関する文書や個人情報保護の方針と利用目的について常に外来者が閲覧できる状態にすることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声かけを行い、本人の意思を確認できるような対応を心がけるよう周知している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前、午後と活動を行っているが、その日の体調を優先して、寄り添ったケアを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや入浴の準備の時に、ご自分で服を選んでもらったり、難しい場合は、スタッフから提案するような形で声かけや支援を行っている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼・夕の食事は隣接する厨房で調理している。お茶の湯呑やエプロンの洗い物を入居者と職員で一緒に行っている。	一日三食、隣接の厨房で調理された食事を提供している。感染症への懸念から、利用者と職員と一緒に食事を摂る機会はほとんどない。食後の一部の洗い物は利用者と共に行っている。月単位で献立が決められているが、季節行事の際は、利用者の要望を反映したメニューを提供することもある。今後は利用者ととともに楽しめる、料理イベントを企画している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体操後や活動の後に水分補給の声かけを行っている。食事摂取量と水分摂取量を毎回記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。一人で難しい入居者は、全介助・一部介助で行っている。必要があれば、訪問歯科の介入を行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中・夜間帯と状況に応じた対応をしている。必要があれば、ポータブルトイレの設置、動作の訓練を行っている。	各居室にトイレがあり、利用者は毎回自室のトイレで排泄できるよう支援している。日々のケア記録や排泄チェック表を活用して利用者の排泄状況を把握し、オムツに頼らない支援を心がけている。1日2回の体操や生活リハビリを通して、可能な限り自立した排泄ができるよう身体機能の維持向上にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄に関しての記録を行っている。便秘傾向(マイナス何日)をピックアップし、状態観察の強化を行っている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定日を設け、声掛けを行い、入浴を行っている。拒否がある方は無理強いせず、職員やタイミングなど、工夫した対応を行っている。	入浴は週2回を基本としているが、その都度、利用者の要望を伺い、希望に添った支援ができるように心がけている。入浴の際は、同性介助でシャワー浴にて対応している。浴室は2名まで入浴可能だが、利用者は一人ずつ個別に対応しており、会話を楽しみながら心身ともにリラックスできるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食堂スペースやフロアのソファ、各居室と様々な場所で休めている。昼夜逆転を予防できるよう生活にリズムをつけられるようスタッフで対応している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	地域の薬局と協働し、服薬管理・内服確認を行っている。お薬の変更等があれば、その都度薬剤師と相談し対応している。	処方薬は利用者ごとに用意されたクリアボックスに保管し、提携薬局と協同で管理している。毎食前、内服薬を薬ケースにセットする時と、利用者に与薬する時の2回、誤薬がないか確認を行っている。残薬チェック表を用いて、薬の飲み忘れがないかを確認し記録している。利用者の症状について、主治医、看護師、薬剤師と情報共有し、適切な服薬支援に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の好きな事、カラオケ・編み物・歌会などを取り入れ、余暇活動を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	フロアだけでなく、施設周辺を散歩したり、希望があればドライブを行っている。	利用者の希望に応じ、日常的に施設周辺の散歩やショッピングなどの外出支援をしている。里帰りを希望する利用者と自宅周辺までドライブすることもある。2か月に1回は、利用者全員で大型ショッピングモールに出かけるなど、特別な外出行事も行っている。初詣など一部のイベントは、地域交流を兼ねて併設のデイサービスの利用者と共同で実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の同意のもと、小遣い程度のお金を所持している。買い物へ行ったときに使用している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、自由に使用している。持っていない方で、ご家族に連絡を取りたい場合は、会社の電話で対応している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースで、その時期にあった行事ごとの飾り付けを行っている。また、廊下や浴室でも空調設備を完備している。	共有スペースには季節ごとの装飾や手作りの編み物を飾り、温かみのある空間作りに努めている。食堂や廊下などには物を置かず、利用者の移動を妨げないよう常に整理している。共有スペースは毎日掃除し空調管理を行い、清潔で快適な環境作りに努めている。同施設の4階には、海を一望できるラウンジがあり、利用者や家族が安らげる憩いの場を設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのテーブル席やソファなどで過ごせるような環境を作っている。一人の時間と、皆と一緒に集団での時間も過ごせるよう工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、制作した飾り付けなど、本人がリラックスできる空間を提供できるよう心掛けている。	各居室にはベッド、クローゼット、エアコンが完備されており、利用者はこれまで愛用していた家財道具、調度品などを自由に持ち込むことができる。写真や自作の編み物を飾ったり、お気に入りのソファを置いたり、利用者の要望を聞きながら、居心地の良いお部屋作りができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の場所やトイレなど、名前を表記して入居者が行きたいところに不安なく行けるよう、環境づくりに努めている。		